

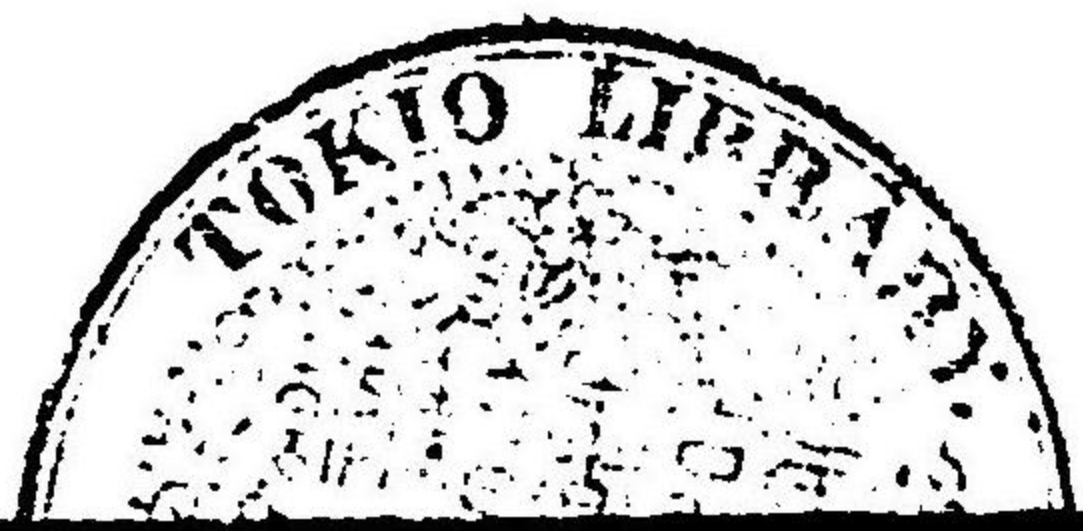
繪本通俗三國志

六編

五

122  
74

|             |             |             |                            |
|-------------|-------------|-------------|----------------------------|
| 東 京 圖 書 館   |             |             |                            |
| 七<br>五<br>冊 | 七<br>八<br>號 | 二<br>六<br>函 | 和<br>書<br>門<br>小<br>說<br>類 |



繪本通俗三國志六篇卷之五

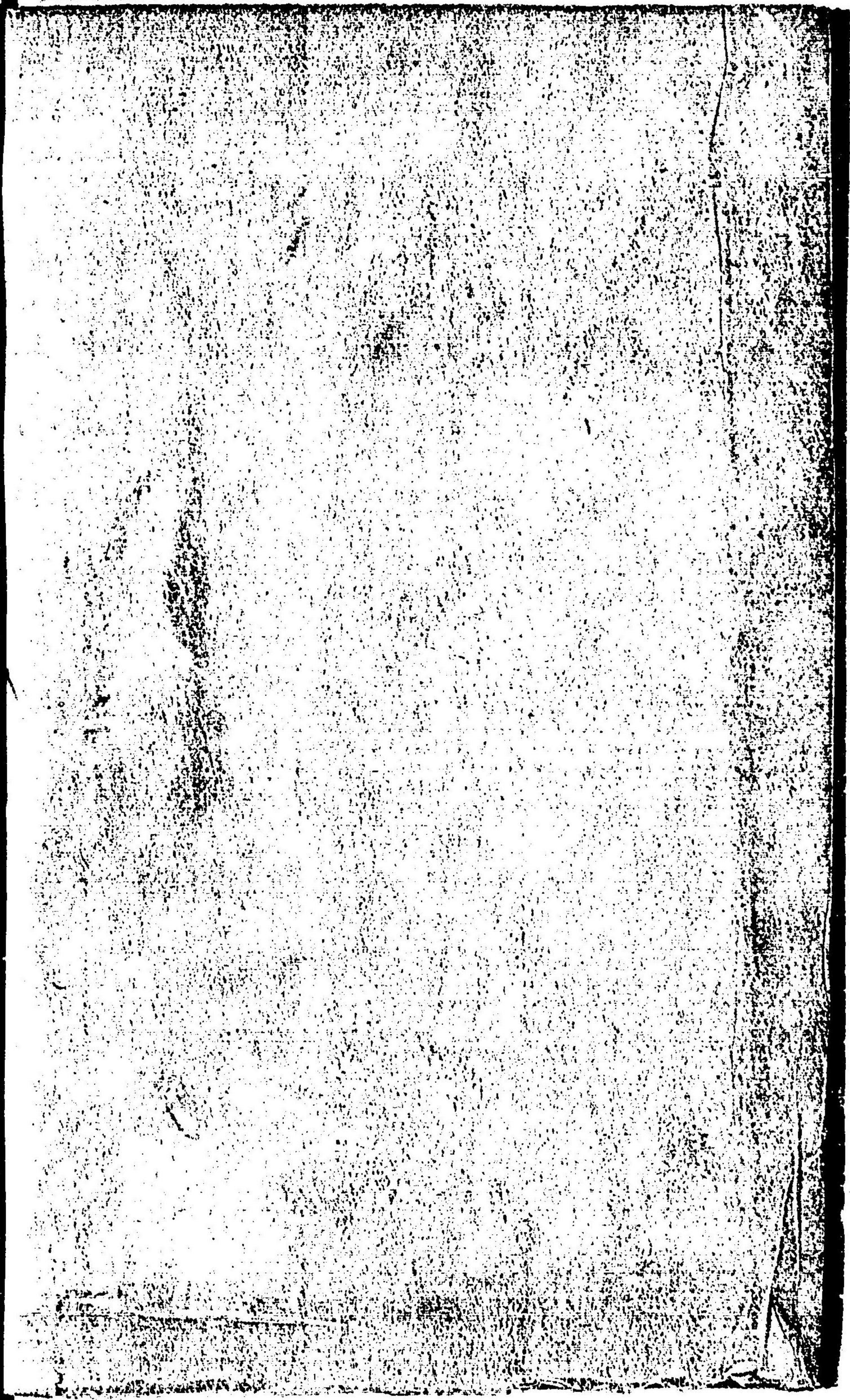
目錄 明治十年交換

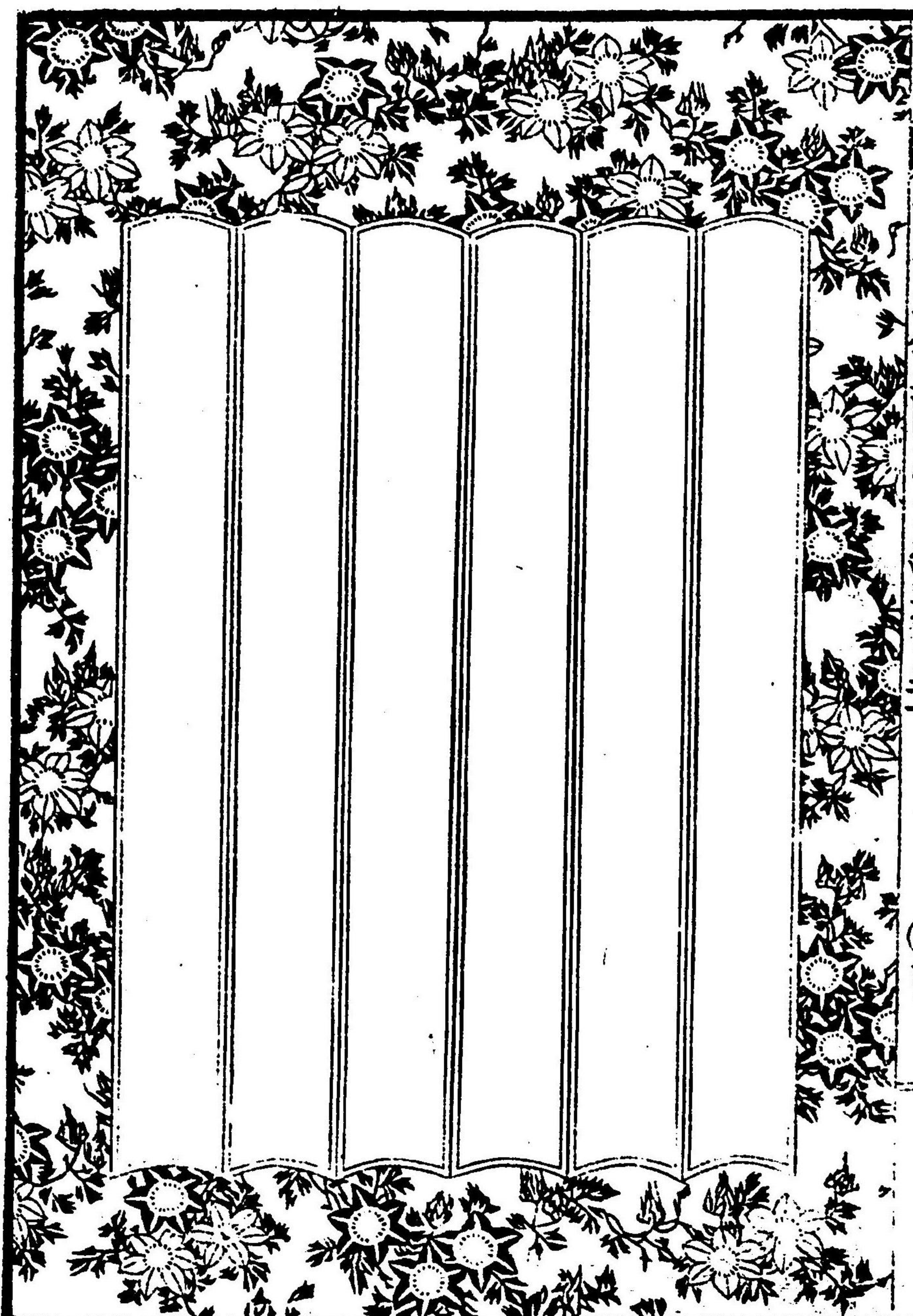
孔明一擒孟獲

孔明二擒孟獲

孔明三擒孟獲

孔明四擒孟獲





繪本通俗三國志六編卷之五

孔明一擒孟獲

去程孟獲又とて平定しく永昌郡の圃の分り解太守  
 王伉城を建て孔明をいへけ孟獲孔明内へ入て問て曰御  
 辺の兵と力とあをせよの小城を守りて王伉を  
 く某々の城を落されし永昌不韋の人呂凱字季平  
 との力あり孔明をあち呂凱を呼ぶ對面し  
 御辺へ永昌の高士あるとてきけり今大軍を  
 り南蛮國を平げんとあつて孟獲を計あらば教を  
 け孟獲呂凱一卷の繪圖を出して曰く某久く南蛮の王化  
 したるを察し南蛮國へ人を遣し地理を察し繪

図を作らうと名て平蛮指掌の図と号す。今丞相は  
 大なる幸あり願ふとて献らん孔明は之を  
 喜び卒に呂凱を行軍教授とて案内者と定む大軍を  
 ともて南蛮國へ打起けるも忽ち天子勅使ありと報  
 せられ孔明中軍を精よく對面するも馬稷素袍を被  
 て入けしべ孔明の故を問ふ馬稷曰く某が兄馬良近  
 比死せり是の人の喪の服を被る今天子某を勅して將軍の  
 酒を賜て紹と生けしべ孔明拜し詔を賜て將軍勢を  
 分ち馬稷を留て物給し今大軍を引て南蛮を平せ  
 んとも御辺はさる高見あるも願ひ聞んとしけし  
 馬稷曰く某一言あり丞相をささるも夫南蛮の國遠山

險しく容易く入らなまて特ぐ昔より王命は志たがむ今日  
 さるも破るといふも明日は又叛く丞相今大軍を引て  
 ひの心を必む大功をさるもさしけしとも都を回らむ  
 後へ忽ち叛いて虚を伺ふと害をささんと謀らん若  
 又尽く誅しく蛮夷の種類を絶は仁者の心にあらず況  
 やなかのく滅し難ららん夫兵を用るの道はんと攻るを  
 上とし城を攻ると下とも心の戦ひを上し兵の戦ひを下  
 とも征はくも丞相は之の心と取伏せし恩を感し徳を  
 懐て長く背ざるの計をさのひんと云けしべ孔明長嘆し  
 て曰く御辺の高嶺よく肺腑を貫けりとして卒に馬稷  
 とともて泰軍と大軍を引て進發せしものよ南蛮王を獲

孔明が雍閬平げて直に攻来る由とき。いそぎ謀將を  
 ありて計とて議する。三洞の元帥とて弟一金環三結弟  
 二董茶奴弟三阿會喃といふものあり。共五六万の兵を領  
 し。元より孟獲が麾下の屬とて其の目を見たり。來りければ孟  
 獲をけり。今蜀の大軍。其の境を犯す。汝亦た早に來て  
 告知せざる。金環三結とて生其のめがかり。真先駈て奴原を  
 踏破らんと云けし。董茶奴阿會喃二人も先手の進んと  
 望み互に争う。已ざりけり。孟獲が曰く汝三人ひとく。行ん  
 とせ。汝が志する。三手に分きて打む。金環三結中路を備  
 ぐ。董茶奴を左に備へ。阿會喃を右に置き。各五万の勢を打  
 立し。下知し。けし。三人命を受て。生みけり。孔明の陣中にお

りて兵の手分を定る。もよふ候の兵をせ來り。孟獲は三洞の  
 元帥と三手に分て。寄來ると告げし。孔明謀將を集て  
 曰く。今南蛮の勢三手に分て。寄きたる。と趙雲魏延  
 を用ひんと。おとども。彼二人の地の利をきらむ。是の人は用ひ  
 ぐ。王平の左備の敵を拒ぎ。馬忠の右備の敵を拒げ。と  
 又趙雲魏延を跡より進めて。汝亦た力と添させん。今日兵  
 を調て。明日早天に出よ。といひけし。王平馬忠命を受て。  
 退生を孔明又張疑張翼を呼て。曰く。汝二人は。一軍  
 を領し。中路の敵となぐ。今日兵を整て。明日王平馬  
 忠と一同に打立。といひけし。二人計を受て。退生を趙雲魏  
 延の目見軍を用ら。と。深く怒る。体みえたり。けれ



趙雲  
金環三將  
一鎗一刺  
首と  
切り

金環三將



趙雲

孔明が曰く。そとみを用公ざるみあらむ。二人とて中老み。よ  
びんべ南蛮勢ありて。地理とあらむ。却く銳氣を失ふんと  
也。怖るも人あり。趙雲が曰く。まほし地理とあらむ。如何ん  
孔明が曰く。汝二人よくんぞ。小は安なるく。動とあらん。趙  
雲よりてひて密に魏延と殺しける。我ホ二人困を生る時  
先陣の將を承りあがら。却て地理とあらむ。今日用ひ  
られざるへ。大なる羞みあらむ。や。魏延が曰く。いざや二人を  
下の勢を率し。ひてさの地乃るものと捕る。案内者とし人  
よりきたる敵の陣を破らん。趙雲げむも同じとの兵を  
引て打出二三里をのり。向と望を馬烟を立く。南蛮勢  
五六十騎がわと。弛来る。趙雲魏延山の間。伏く。前後より取

巻けし。南蛮の勢。まごろひて。逃走ると。蜀の勢。あけけ。生  
擒も。趙雲魏延酒を飲せ。生物とせ。路條と問ふ。  
南蛮勢。その恩を感づく。しける。真先。金環三結。大  
寨山。兵を屯。東西。二條の路ありて。五溪洞。一  
通。阿會喃。ホが陣も。相通せり。趙雲魏延。よと聞  
て。卒に精兵五千余騎を率し。生捉と案内者とし。その  
夜の三更。打立月と。明らる。けし。直に金環三結。陣  
み。けり。けり。已に四更の比。あ。南蛮の勢。漸く起  
あがりて。兵糧を使ふ。趙雲魏延。よ。時分。と喜み  
両方より。喊を。造。攻入。南蛮勢。あ。ひ。よ。ら  
ざる。と。あ。以ての外。發動。上と下。と。反。し。ける。趙雲

蜀の勢。あ。け。け。生。擒。も。趙。雲。魏。延。酒。を。飲。せ。生物。と。せ。路。條。と。問。ふ。南。蛮。勢。その。恩。を。感。づ。く。し。ける。真。先。金。環。三。結。大。寨。山。兵。を。屯。東西。二。條。の。路。あり。て。五。溪。洞。一。通。阿。會。喃。ホ。が。陣。も。相通。せ。り。趙。雲。魏。延。よ。と。聞。て。卒。に。精。兵。五。千。余。騎。を。率。し。生。捉。と。案内。者。とし。その。夜の。三。更。打。立。月。と。明。ら。る。け。し。直。に。金。環。三。結。陣。み。け。り。け。り。已。に。四。更。の。比。あ。南。蛮。の。勢。漸。く。起。あ。がり。て。兵。糧。を。使。ふ。趙。雲。魏。延。よ。時。分。と。喜。み。両。方。より。喊。を。造。攻。入。南。蛮。勢。あ。ひ。よ。ら。ざる。と。あ。以。て。の外。發。動。上。と。下。と。反。し。ける。趙。雲

直ち中軍を突て入り。大将金環三結を生合。兩馬相交り。乃一鎗を刺殺し。その首を取て縦横無碍に馳り。南蛮の勢大半討して。四方へ散と散乱と。魏延一軍とて。きまらぬ董茶奴が陣を打ひ。ひけし。趙雲も兵と引て。何會南が陣を。あしよせける。と。た夜も。や。あ。の。ぐ。と。あ。ひけり。魏延た。ち。董茶奴が陣の後ろより。攻けし。南蛮の兵と破ら。は。じ。と。火華を。ち。ら。し。て。戦ふ。又陣門乃前。の。喊。を。作。り。て。王平が。勢。と。ぞ。馳。来。り。扱。さ。ん。て。攻。け。れ。董茶奴が。勢。を。し。ぶ。く。乱。さ。し。我。と。ま。ま。と。逃。失。け。る。趙雲の兵を。し。ぶ。く。何會南が陣の後へ。生。け。る。が。蜀の大將馬忠己。よ。の。前。と。攻。て。挑。戦。最。中。あ。り。け。し。後。ろ。う。喊。を。と。し。と。

造。と。蒐。たり。け。る。南蛮勢前後。度。と。失。く。と。さ。ん。ぐ。と。逃。が。ける。蜀の勢。あ。り。ま。ま。打。勝。ち。の。く。軍。を。収。め。て。本。陣。を。回。り。孔明。見。え。右。の。趣。き。と。告。げ。し。孔明。問。て。曰。く。三。洞。の。蛮。兵。尽。く。敗。乱。と。大。將。を。捕。得。と。あ。る。趙雲。と。あ。り。金環三結。が。首。と。生。し。く。第一の功。と。記。し。け。れ。を。魏。軍。と。あ。い。く。董茶奴。何會南。二。人。の。嶺。と。超。山。を。攀。ぐ。逃。去。し。り。その。女。を。生。捉。と。得。と。孔明。笑。ひ。て。曰。く。董茶奴。何會南。の。首。已。に。擒。め。せ。り。魏。大。將。を。あ。信。と。せ。ま。さ。し。不。も。志。ぞ。ら。く。あ。り。て。張。疑。の。董茶奴。を。生。捉。張。翼。の。何會南。と。生。取。引。と。帳。下。に。来。し。る。魏。人。と。あ。り。孔明。が。曰。く。我。呂凱。が。繪。圖。を。と。と。ぞ。南蛮勢の陣。と。取。べき。と。志。ま。り。その。人。の。言。と。り。て。趙雲。魏。延。と。励。し。深。く。重。地。を。入。と。ま。り。金環



三結が陣を攻たぐち兵を分て左右の陣の後をひらんと量り  
 馬忠王平よその前と攻て前後より打破らむとの趙雲魏  
 延よあらざるを叶はしむ又董茶奴何會喃が必と山路よ  
 り走らんごと料り善て張疑張翼と伏て山の間を待せ閑  
 索よ命とて若残るあら討留よと遣たり諸人をとて支て地よ  
 拜伏しく丞相の兵機鬼神も測くごと感とける孔明と  
 あら董茶奴何會喃と引生しくその繩と解免し酒を飲  
 せ衣服をたぬみく送回し今より悪人を扶るとあられといひ  
 けとて二人涙をあびて徳を感と小路よりぞ回りける孔明  
 魏將よけりる明日の孟獲もも自ら攻来るべ計ととも  
 ちひで擒よせよとて趙雲魏延よあらく五千余騎をとひけて計

策と教へ王平関索よあらく一軍と興く計を授けよと皆相別  
 れて生るけり去程よ南蛮王孟獲へ先陣の勝負ははひりよ三  
 洞の元帥よ孔明よ主挺とくその勢が大半討とぬと告げよ  
 ば自ら天軍を率しく打出けるよ端ましく蜀の大將王平よ生  
 めひ兩陣相對しく王平馬と生し南蛮の勢と望むが敵百  
 騎の大將よあめやと出立よと兩辺に排列し孟獲旗乃  
 下よ捲毛赤兎の馬とあどらせ頭よ七寶の紫金冠とけりまき  
 身よへ纓絡紅錦の袍と被て腰よ礮玉の獅子帯とけり脚  
 よ鷹鳥嘴青抹緑の靴と穿ち松紋扇宝の劍とけり昂然とて  
 左右と顧み人よ孔明が兵を用ゆると神通を得たりと云  
 が今よの勢とせるよ旗の色もと口をば行伍整くとして一

勝たるとは。雜二陣に進んで。奴原を蹴散さんといひけり。南蛮の大將は。北牙長といふもの。雜刀を打振り。黄驃馬を馳せて。討て。蒐り。王平と五六合た。うひける。王平。詠り。負て。逃ければ。王孟獲。金をひき乗。追蒐る。る。関索一軍と。す。迎戦。又との。詠り。負て。走り。け。王孟獲。兵を。詠り。息を。継。で。二十里。余り。追。る。忽。然。と。一。喊。の。声。起。り。左。は。張。疑。右。は。張。翼。二。手。の。勢。討。て。出。南。蛮。勢。の。後。を。遮。り。け。王。平。関。索。も。一。度。取。り。回。り。夾。さん。で。攻。たり。け。南。蛮。の。勢。前。後。の。度。を。失。ひ。さん。ぐ。乱。て。討。る。る。の。麻。を。散。せ。る。が。如。あり。一。王。孟。獲。を。う。く。圍。て。い。で。錦。帶。山。を。さ。し。く。走。け。る。跡。す。り。蜀。の。勢。喊。を。造。り。追。駆。る。と。い。ひ。走。る。と。二。三。里。よ。り。谷。の。内。より。一。彪。の。軍。馬。討。て。出。一。文字

二。路。を。と。よ。の。切。て。蜀。の。大。將。趙。雲。ま。い。り。た。馬。を。出。し。け。れ。王。孟。獲。大。に。お。ど。ろ。ま。急。に。路。を。易。て。小。路。よ。り。走。ら。ん。と。ま。る。を。趙。雲。ご。の。と。嘆。ひ。て。蒐。たり。く。南。蛮。の。勢。大。半。討。て。生。取。る。る。の。奴。を。ま。ら。む。で。王。孟。獲。の。死。戦。し。て。逃。し。出。殺。す。詩。を。詠。り。走。り。け。る。が。後。よ。り。敵。の。追。を。急。し。て。路。の。枝。し。と。入。ま。さ。さ。り。あ。り。し。る。馬。を。乘。と。て。木。の。根。岩。の。枝。を。相。こ。付。嶺。を。越。り。逃。ける。の。勿。心。ち。谷。の。内。より。鼓。の。土。邑。地。を。動。し。て。魏。延。五。百。余。騎。出。り。け。出。四。方。より。取。巻。て。卒。に。一。人。も。漏。さ。ざ。り。生。投。け。り。孔。明。の。の。と。本。陣。の。酒。宴。を。殺。し。い。ろ。く。の。者。を。用。意。し。て。帳。上。帳。下。の。鎗。を。列。ね。戦。を。立。て。其。光。氷。雪。の。涼。く。た。る。が。と。く。右。の。御。林。の。精。兵。を。排。し。て。十。万。

勢之伏子無獲之待  
大蛇帶山



勢之伏子無獲之待

玉獲

勢



伏勢

勢之伏子無獲之待

威を逞たくまし。生い捉とらる。南蛮なんばんの軍兵ぐんべいをよび出いす。其そのの繩なづなを  
き放はなして。中なかつける。汝なんぢ亦また元もとより罪つみあるを。孟獲もうかくを詔しやくして。是  
の正ただしく。生い捉とらたり。汝なんぢ亦またが父母ふぼ妻子しよの。お門かどより。回かへすの  
ぞも。若もいま。生い取とりたる。を。まき。り。血ちを流ながして。泣なみだ涙なみだまん  
る。忍しのび。放はなして。汝なんぢ亦またを回かへら。し。必かならずに。再ふたび。悪あく人ひとを助たする。と  
ある。れ。酒さけを飲のみせ。糧かを共ともく。回かへし。け。れ。南蛮なんばんの軍民ぐんみん其その恩おん  
を感かん。涙なみだを。あ。ぶ。して。去さり。け。る。次つぎに。武ぶ士しども。孟獲もうかくを。公こう  
出いし。け。れ。バ。孔こう明めいが。け。る。先さき帝てい常じょうに。汝なんぢを。憐あはれ  
む。何なにとして。又また謀ま反はんせる。ぞ。孟獲もうかくが。曰いく。兩りやう川かうの。地ちの。元もと来きた他人たにんの  
物ものある。ぞ。汝なんぢが。主しゆ人にんと。だ。り。逆さか威いを。震ふるて。奪うばひ。取とり。ま。は。し。世よに  
ま。の。國くにを。保たもつ。汝なんぢ亦また無む礼れいの。ま。ま。に。塚つかを。犯かす。然しかし。却かへて。ま。を。

謀ま反はんと。い。へ。何なに事ことぞ。孔こう明めいが。曰いく。ま。は。し。汝なんぢを。擒とらみ。ま。は。し。汝なんぢが。ん  
ま。ま。に。服ふくする。ぞ。孟獲もうかくが。曰いく。錦きん帶たい山さんの。路みち狭せまい。と。殺ころして。汝なんぢ  
ま。生い捉とらたり。ま。が。ん。ま。ん。ぞ。服ふくせん。孔こう明めいが。曰いく。汝なんぢ服ふくせ。ま。ん  
ま。ま。に。放はなして。回かへら。し。ま。ん。の。如ごとく。何なにも。孟獲もうかくが。曰いく。汝なんぢ亦またを  
放はなさ。ば。我われも。ま。ま。に。兵へいを。ま。も。て。共ともに。雌め雄ゆうを。決けつま。し。重おもく。は。て。ま。ま。に  
を。生い捉とらば。我われも。傾かたけて。汝なんぢも。服ふくせん。孔こう明めいが。曰いく。今いま汝なんぢを。放はなし  
て。回かへら。し。ま。再ふたび。兵へいを。整ととのへ。来きたま。し。て。ま。の。繩なづなを。解とけて。衣い裳しやうと。あ  
た。く。酒さけを。飲のみせ。送おくつ。て。回かへし。け。る。蜀しやくの。諸しよ將しやうを。ま。も。て。ま。ま。に。孟獲もうかく  
の。南蛮なんばんの。國くに王わうの。ま。ま。に。幸さいに。擒とらま。し。て。又また放はなす。の。ま。ま。に。何なにも。ぞ。と。問とひ。け。れ。バ  
孔こう明めいが。ま。も。て。曰いく。我われも。ま。ま。に。生い捉とらと。囊ふくろの中なかつより。物ものを。取とり。ま  
ま。に。其その心こころを。服ふくせ。ま。ま。に。自みづから。平へい安あんあら。ん。汝なんぢ亦またも。ま。も。と。あ。れ

南蛮の國王のままに幸に擒まして又放すのままに何ぞと問ひければ孔明がまもて曰く我もまもに生捉と囊の中より物を取らば其心を服せまもに自ら平安あらん汝亦もまもとあれ

と。しんけいしつ。諸人あ入り。その意をきき。冷笑ひて。退ぎま  
けり。

孔明二擒孟獲

南蛮王子孟獲の孔明を放さして瀘水の辺まで来り。殷軍の  
士卒のあしより。弛集り。大王のあしより。回り入ると。問は  
れ。孟獲答て曰く。難所を行結て。蜀の勢を生取とける。が  
夜。入つて。我々の番の者ども。十余人と打殺し。忍び出て  
走りける。一手の軍馬路を塞ぎ。我々のあしより。打破て。八方  
へうけちらし。是馬を奪て。逃れ来り。南蛮の勢をたのむ。喜び相  
扶けて。瀘水を渡り。陣屋を構て。魏洞の大將をまねき。けれ。四  
方より。相集て。程ちく。又十万余騎。あしより。あしより。此を董

茶奴阿會喃の洞中を回りける。が孟獲使をのりて。あし寄り  
まへ。巴とて得む。来りけり。孟獲魏將をまねける。我々の  
孔明が計と志を。只戦さる。若くは。戦とらへ。彼が  
計と中る。蜀の勢を。さる。来り。炎天の暑気。あしより。安  
んぞ。く。留ると得ん。あしより。瀘水を前まで。岸の上  
に。塹をぬり。城を構て。堅く守り。出て戦ふ。と。あしより。如何なる  
孔明のあしより。争つ。怖る。あしより。ひま。れ。諸人。あしより。二。從  
ひ。船筏を南の岸。あしより。山。あしより。山。高。く。長。城。を。ま  
け。き。あしより。矢倉を堅て。その上。鉄炮。あしより。殺。け。多。の。兵。糧  
を。運。送。し。て。十。万。堅。固。を。備。り。け。れ。が。孟。獲。大。喜。び。万。全。の。計  
と。あしより。進。発。し。ける。が。

先陣とて瀘水の岸に到り南の方と望みれば水の勢ひ甚  
 急なり。白波天に漲り岸の額二帯の長城と築き所こ  
 矢倉を立て逆茂木志びく羽けたり。況や時さへ五月の  
 末よあよんを南方の地の暑気とて甚ばく。人とお甲をさる  
 ことども克ざりけしべ敵の十より多く守たるとして退屈せ  
 ざるとの命のは孔明とてまじく自ら瀘水の辺に來り敵  
 の体と望見て本陣を回し。諸將を令と傳て曰く。今子孫獲城  
 と構て。もを拒ぐ。我とてまじく來て。あま打棄ていと  
 ばら。回らんや汝ホとあ山より。林を以涼くらん。あと。えら  
 んで。まじく人馬を休よ。幸よ。呂凱。案内者。林木の茂れる  
 陰に陣屋を構よ。命つけられ。呂凱よく地理と考へ瀘水と。

百里をかり溝て。諸大將の陣屋と連ね。柵の上を草と掩て。炎  
 天の暑気と志のたける。参軍蔣琰まをえ。孔明も。けし  
 へ某の謀大將の陣取をえ。山に依林に傍く。昔日先帝  
 の吳の陸遜を破られ。ひ陣に似り。若南蛮の勢ひを。瀘  
 水と渡り。火と付て攻來ら。如何と拒ぎ。孔明笑  
 ひて曰く。汝が志ある。あま。我とてまじく。計あり。え。二  
 野の都より。大將馬岱。暑気を拂。兵糧米とて送り。ま  
 た。と。報つけ。孔明や。對面。都の無事。と。問  
 て。ま。藥と。諸軍。分ち。汝。程の勢。ひ。來。と。問  
 ん。馬岱が曰く。三千余騎を。孔明が曰く。汝が。勢。の  
 間の戦ひ。と。疲れ。と。汝。新手。と。先手。進ん。馬岱

新編通鑑三國志六續卷之五

〇五

曰く。あるは朝廷の軍馬を何ぞと彼とに分け  
べき。丞相は其を用ひし。命を棄てし。あんなに惜ん其は  
孫先帝の恩を報じし。よ。よ。あまを恨る。孔明が曰く。いま  
孟獲瀘水の南にあつて。生合を。いまが彼が兵糧の路  
を絶塞せし。戦を。自ら乱し。人馬を。絶  
ふ。孔明笑ひて曰く。あまより百五十里を離れ。瀘水の下  
は流沙口といふ。あまの。水の勢は緩く。舟筏を渡  
るべし。汝三千余騎の生手と率し。あまより渡り。先其  
兵糧を運路を。えぎれ。その後董荼奴何會喃内を  
あまより。と。ひけ。馬を。然として。直は流沙口  
の。兵を。水を。の。外は。半の

も乗を。馬を。打。入。て。渡。し。は。る。河の半。の。人馬  
も。尽。く。倒。ま。し。け。れ。を。急。に。相。救。て。回。し。け。る。よ。は。す  
血を吐て。五六百人の死とりけ。馬を。早馬打  
孔明も告げ。孔明の。の人を。尋。孫。出。し。て。の。故。を。問  
ふ。里人答へ曰く。今。天の。暑。氣。甚。な。あ。り。毒。さ。ら。べ。く。  
瀘水も集り。日中の。あ。び。ら。殊。に。仕。ん。ま。り。の。人。も。渡。る。人。あ。れ  
ば。あ。ら。ま。で。の。毒。中。り。ま。の。水。を。飲。ま。な。べ。必。死。き。も。一。夜。は  
入。て。水。冷。ま。る。と。た。毒。氣。起。ら。ま。で。の。と。あ。よ。く。食。は。飽  
て。渡。れ。ば。あ。ら。ま。無。事。あ。り。孔明嘆。い。て。曰。く。土。人。の。言。ま。は。ち。て  
妙。あ。り。の。渡。る。ま。路。あ。ら。ま。汝。亦。安。内。せ。よ。と。て。是。種。の。兵。五  
六。百。騎。を。え。ら。し。馬。を。さ。げ。木。を。伐。て。筏。を。浮。べ。夜。半。の。あ。ら



馬位夾山谷  
 中と壘國乃  
 兵糧とろ



流沙口より渡ける果して羨き南の岸へ着みける馬岱  
らなりき喜び孔明が授たる繪圖を以て千余騎の精兵  
を率し土人を案内者として直に洞中より兵糧を運ぶ  
路は出づる路両方の高く聳たる大山にて中より川の細路二  
人相双へても通つじなま本ありけしとて谷を跨ぎ陣を取  
けり州と南の勢の勢の勢の勢を以て兵糧を運び  
来ける馬岱が勢の前後を遮られしとて走りければ  
馬岱とて兵糧の車百輛ありしを奪ひ得たり孟獲は南  
岸の城ありて日夜酒を飲で軍務を理めし諸人といひ  
て下ける我は孔明と戦ふは彼が計の中らんと  
はの瀘水の險阻を守りてあはれと戦ふは是れありき

氣を受ての軍何まざる休べき近き内におのり走り去る  
とて追討せむ必しも孔明を生捉へて手を拍て大に  
笑し時二人も又流沙の渡り水も浅し蜀の勢ありし  
たれば味方の為に害するべし一軍を分て守らしむと云はれ  
孟獲笑ひて曰く汝等の地は住居して何とて攻めぬぞ我  
蜀の勢の瀘水を渡りて皆水中に死んとして終る又一人進出  
曰く瀘水の毒気ありしとて人ども若夜渡ること教は如何ん  
孟獲が白くも領内の人らも他國の敵もいと教人汝ら  
らたに畏ることあるれ時早馬またり蜀の勢多しとて  
瀘水を渡り夾山の谷に屯し平北將軍馬岱が旗を率て  
兵糧の道を塞げりと告げし孟獲笑ひて曰く量りし

輩ある程のりらわらし只蹴散しく奔よとて大将北牙長  
 三千余騎を興と。夾山へむらへし馬岱の敵の来るととて兵を  
 山の前に出しければ北牙長鎗をひねりて突くやうに西馬相交  
 り馬岱は刀を斬りけり南蛮の勢大将を討れてさどろの城  
 へましましへて走りて逃回り孟獲を見く右のあひまきと告げ  
 れば孟獲諸將を呼ぶやけりへたると行て馬岱を破らん董  
 茶奴が曰く某ゆゑくく行ん孟獲大に喜び三千余騎を興  
 てむらへし又蜀軍の瀘水を渡らんことを怖し何會喃は三千  
 余騎を付て流砂口を守らせける董茶奴兵を引てさどろ  
 夾山谷へ向ひければ馬岱は山の前に討て出さるる董茶奴  
 が戦かると告るものあひまき馬岱馬と出しく大音のげ恩

と志と義を背くの賊が丞相さまに汝が命を扶け入り汝又羞  
 をも志しむらへし来まるとさどろりければ董茶奴慙愧して谷  
 へまき討ちて戦ひむらへし退まけるも馬岱追うけて四角八方へ切  
 散ると董茶奴回りて孟獲負へ馬岱山が英雄當るべうらたこと  
 らひければ孟獲怒りて曰くさどろよく汝が陣を賣の計とて志  
 らぬ汝さまも孔明が恩を受たりしゆ今戦ひむらへし退またり  
 とて引生しと斬志めんとするを熟人再三命を乞ければ孟  
 獲は其命を扶け根をのりて背を百杖で打せける董  
 茶奴は責らると我陣を回りければ諸大將尽く来りあ  
 はむのりて曰くさどろ亦蛮ち居るとさどろ卒に中國を犯すと  
 はさどろの中國又さどろを犯せるとありし孟獲根を強を

時を以て我亦を催して浩然大乱を起し出せり。況や孔明が  
 計畧の鬼神も測ること克く。魏の曹操吳の孫権だも我  
 て怖る。もと亦蛮夷の徒の如く是も及ぶ。孔明よと我亦が  
 命を扶けし恩あり。倡や孟獲を殺して孔明は降り百姓  
 の塗炭を救べし。董荼奴が曰く汝亦魏軍の令いふ。その  
 勢も亦孔明を免されたる者共ありけし。皆同音も縁ぐ  
 く。子孟獲を殺して禍を免さんと。董荼奴大に喜ぶ  
 手は劍を掲げ百余人を引いて本陣に走り入る。孟獲  
 の前後も志も帳中へ伏て。猛將二人傍に立けし。董荼奴  
 が曰く汝亦孔明の恩を受たるもの。如何にも且其く  
 百姓の禍を除んや。二人の猛將答て曰く。もと亦の如く。

らあり。將軍の手を下し。孟獲と擒  
 せんとて。押して繩をうけたり。董荼奴いそぎ舟に乘り。瀘  
 水を渡り。蜀の陣に入り行く。孔明の由を探りきて。諸將  
 以下知て傳て陣に兵を敷置せ。董荼奴は中軍を以て  
 對面し。其子細を問て。一は恩賞を與て。まが洞中へ  
 次を孟獲を引出させ。孔明笑ひて。ける。汝また再びい  
 取らば降らんと。いひ。今日如何ん。孟獲が曰く。まが生  
 取れたる。あり。我手下の者。うらうらと仕出。此の  
 孟獲が曰く。もと南蛮の夷。まが善兵法に通ず。今も放  
 まし。洞中へ回り。勢を集り。勝負を決せん。其も又生

新編通鑑三國志六續卷之九

〇七

取まば我んて傾けて。汝は服しめて又背をさげん孔明曰く我  
 重て生捉て汝又服せざるを決して軽く一宵とある。汝  
 べしとて兵の命トて繩をとり酒を吞せて下ける我の草  
 の廬を出てより戦ふ勝るといふとさる攻るの取まるといふ  
 一。汝蛮夷の人ちんぞ早く服せざる孟獲黙然とて答ざり  
 まる孔明をあらり引く馬のせ総大将の陣屋を打巡り兵糧  
 山のどく軍器霜をさし數十万の精兵甲の袖を列袂盛を耀  
 かしく威風凜凜たるごとく孟獲みむるに下りて汝服せざる  
 の真の愚人なる我此のどきる精兵あり汝争勝とて得人若  
 をや服せざるも天子を奏して汝を國王に封じ子孫長く  
 南蛮を領せしめん孟獲が曰く某いま服と乞はれども洞中

人のまごあそくと安んぜむ丞相は某を放しつる百姓を  
 率てとも服せん孔明忻然としく又中軍を回し酒宴を  
 設けり持しは晩におよんで自ら瀘水の岸まで送り舟を  
 のりて扶け回らむ

孔明三擒孟獲

孟獲本陣を回しその夜数百人の兵を伏し董荼奴向會喃  
 亦と殺さんと計り孔明が方より使あり早く本陣へ来れ  
 とし遣ければ二人忽ち来りけるて合図の鉄炮を鳴し  
 伏兵一度を起り尽く殺して屍を谷の内へ棄させ総將を  
 分て要害を守り自ら夾山谷へむらむ馬岱と戦へんとす  
 蜀の勢一人も入らざるべし鹿の者とよんで尋るも昨夜

瀘水と渡り回ぬと申す。孟獲本陣を回り、弟の孟優と  
 ちりて下ける。孔明が陣中の虚実を明く。汝  
 の計を行へと。さてやたけし。孟優は孟獲の強  
 の精兵百余人を扱んで。金銀珠寶の類と持せ。瀘水と  
 ちりて。孔明が陣中をめぐり。岸の辺より。鼓角を鳴し  
 て。一彪の軍馬打て出蜀の大將馬岱。一文字の路とよま。切  
 け。孟優をとり。孟獲をとり。降参の由と。馬岱先孟優  
 と外より。孟獲を走らしめ。右の趣きと告げ。孔明の計  
 諸將と。計とを議し。ける。が。の由と聞て。馬禰を問て。け  
 る。汝を志し。や。馬禰が曰く。言と。の。伸が。書付  
 て。と。と。と。紙筆と求。書て。孔明とせ。孔明

孟獲を捉て。大笑し。手を拍て。ける。孟獲を擒む。の計  
 孟獲は定置り。汝が意見よく。我を合り。先趙雲と。と  
 び。計とを授け。又魏延と。計とを。や。次王  
 平馬忠関索と。と。分付し。子孟優と。孫入と。  
 對面し。けし。孟獲地を拜伏し。曰く。某が兄。孟獲深。丞相  
 の恩と。被り。某を命じて。先金銀珠寶を献ら。自ら天子  
 の貢物と。と。跡より。来り降らん。願く。長く服し。  
 背をさけ。孔明が曰く。汝が兄。今何。孟獲が曰く。銀  
 坑山。入て。種。の。取。来。天子を献らん。孔  
 明が曰く。今汝は。来。何。孟優が曰く。孟  
 孟。百余人。と。皆。運。孔明



ちやくやくや入てさきとて見る皆黒き面にて紫きの毛生て眼の中青く耳の金環をたきて身長く力強きものどもちりければ傍に坐せしめて酒を飲せ孔明のけり。孟優と笑ひ樂んで酒宴を刺しおよびける。孟獲本陣ありて孟優が合図を待けるも忽ち士卒二人をせ回り孔明とて禮物を受て実るりと喜び中軍をまねき入て酒宴を設けて持成ひ。孟獲よりて孟優ひそに某とのめて大王を告知さしむ。今夜の三更大軍を引ておよませの内にすも攻合せて同時に孔明を生捉へしと云けしとて孟獲をほたりと喜び三万余騎の精兵を揃く。三手よりけしお硫黄焰硝の類を持て蜀の陣に火を付て孔明を生取んと約をばし日暮より打起し志の

びやうと瀧水を渡り自ら猛將百余騎を引て蜀の陣に打向ひける。敵一人も生ざりし馬を飛して中軍へ入ける。燭の光白日のどく。孟優を始として手下の兵とて酔倒たり。是元より孔明が計にて馬を獲し樂人の難めて殷勤に酒をさし酒の中を樂を置たし南蛮の兵も酔倒して死せる。とちりて孟獲の体をさして如何とせざるも引起して問んとされども人心の地あるものなり。其内より一合し醒たるもののみ口手をして口を教けしとて孔明の計の中より弟を救ひ生さんとせると忽ち然として喊のさるひきき一手の軍馬討て出蜀の大將王平鎗をひねりて突てのち孟獲抱えおとろき散て乱して走りければ左の方より一手乃

兵討て出蜀の大將魏延のまゝの乗て、蒐たりし南蛮の兵  
討るゝと、救を志らざる我とたよと、逃るるも、又右の陣より、喊  
せど、のどあげて、火の光、天地より、や、蜀の大將趙雲一軍を、  
く、け、生、勇を、振、て、攻、こ、り、し、孟、獲、三、方、より、包、ま、れ、て、只、一、騎  
ま、し、く、の、田、を、生、瀧、水、の、上、下、を、を、せ、廻、て、舟、や、あ、る、と、尋、る、し、岸  
み、ま、り、て、一、艘、の、小、舟、あ、り、南、蛮、の、勢、五、六、十、人、取、乗、た、り、是、天、の  
助、ち、り、と、喜、び、り、と、飛、り、く、と、ち、早、く、舟、を、出、せ、と、い、ふ、舟、の  
中、あ、る、兵、も、忽、ち、孟、獲、を、取、て、引、伏、せ、卒、に、繩、を、う、け、た、り、け、る、ま  
れ、元、来、孔、明、が、計、を、て、馬、伏、手、下、の、兵、を、引、て、南、蛮、の、勢、を、仕、と  
く、夜、中、ま、ま、に、真、偽、を、分、ち、が、た、り、と、料、り、し、の、舟、を、浮、べ、  
相、待、け、る、孔、明、本、陣、の、あ、り、て、生、取、を、尽、く、引、出、さ、せ、酒、を、の、ま

せて、送り、回、し、次、に、孟、獲、を、引、出、さ、せ、笑、ひ、て、引、け、る、は、汝、ま、が、い  
は、を、り、て、弟、を、降、人、の、出、し、し、を、出、し、抜、て、内、外、より、攻、ん、と、計、  
り、今、已、に、擒、み、せ、り、汝、が、ん、も、自、己、の、服、を、や、孟、獲、が、白、く、是  
の、弟、の、孟、優、が、食、物、を、い、さ、お、り、て、殺、つ、と、毒、中、り、醉、倒、れ  
て、計、を、仕、損、ト、た、る、の、人、ち、り、我、は、外、より、攻、て、弟、は、内、より、  
應、ぜ、を、必、と、大、に、打、勝、ん、と、れ、天、す、り、敗、る、と、い、ふ、が、負、た、る、も、有  
む、安、ん、で、服、を、乞、ひ、孔、明、が、白、く、今、已、に、三、度、ま、で、汝、を、生、か、り、  
し、お、仁、義、を、の、り、て、放、さ、し、と、い、ふ、も、猶、服、せ、ざ、る、は、何、と、ぞ、孟、獲  
首、を、低、て、答、え、り、け、し、孔、明、笑、ひ、て、曰、く、今、已、に、汝、を、放、し、回  
志、せ、ん、と、孟、獲、が、曰、く、丞相、は、弟、を、放、さ、す、一、族、謀、將、を、  
あ、り、て、快、く、一、合、戦、し、と、の、と、又、生、取、を、乞、ひ、と、い、ふ、も、ち、力、尽、る



く。孔明が曰く。重く生取べ決くと  
軽く。怒さじ。汝よくんぞ。小く軍書を考へ再び兵を整理  
れ。必も後悔るとあるれとて。尽く放しけし。孟獲孟復拜  
謝して。回りに瀘水を渡ける。岬の上の色く。旗風  
ひるがへりて。蜀の大將馬岱陣前高坐し。手は劍を把り。孟  
獲をさし。孟獲おそれ。得まじ。陣中へ逃入んとする。蜀の大將  
趙雲さして。奪取旗を立。武具を列。前へ立出。丞相  
く。ぞく。大恩を施さ。汝よくんぞ。志するのありれと云けし。孟  
獲急し。引回し。山路より走らんとする。蜀の大將魏延千余  
騎を引。堤の上へ陣を取。刀を提げて。舌を励し。今已にふく。

汝が巢へ入る。汝よくんぞ。迷を執て。まが。大軍を拒ぐんとする。  
重く。生取べ。ちらも。すく。刺し。いひけし。孟獲。騰を  
冷し。頭を抱く。鼠の窟が。とく。回りけし。孔明。瀘水を渡  
りて。南の岸へ陣を取。大に。秘軍を。勞ひ。秘將を。ひ。曰く。  
る。孟獲。生取と。三が。度。比。自。義。を。ひ。放  
たり。大に。元。恩。を。ひ。蛮。夷。の。心。を。む。び。其。自。ら。乱。る。を。  
待。ん。為。さ。り。初。も。孟。獲。を。引。味。方。の。陣。を。巡。り。兵。糧。  
武。具。の。多。きを。せ。せ。と。る。彼。も。火。を。け。け。攻。破。ん。と。の。  
起。ん。と。思。ひ。果。し。孟。獲。を。其。心。を。た。や。ち。ら。も。  
報。ひ。弟。を。降。し。内。外。の。兵。を。我。擒。り。殺。さ。り。  
へ。尺。心。を。傾。け。て。彼。が。服。さ。る。を。待。ま。の。之。尽。く。殺。し。其。種。類。

を遺さるる仁者の為さるる本之馬褭が意見をもとに同。今是  
又の汝は結るるれらぎを辞せむ。國の為と思を報せよと  
云けむ。諸人拜伏して曰く丞相の智仁勇大公望張良も争  
ちよむ。孔明が白くも安んず。古の人を慕ふ偏に諸將の力  
も持て。酒宴を設けて悦びをあた

孔明四擒孟獲

孟獲三度まで生投して。その内をあると慙愧し。八番九十三回  
洞主に金銀を送りて。叔父の兵を借程なく雲霞のこく  
あつた。けむ。日を扱んで蜀の陣を攻んとす。細作のよ  
やく孔明に告げし。孔明大笑して曰く南蛮の勢遠近より  
集る。我もその願する。つとよ。能をこせしめん

ふら四輪の車を推せて出ける。前より河ありて西洱河と名く  
水の勢緩し。舟も。船筏あつた。けむ。其辺の木を伐て筏  
を渡さんとする。其木を沈しけり。孔明は且をて。呂凱を  
めして。この河を渡らんとす。呂凱は集る。西洱河の上より山ありて大竹おほし。といふことと傳聞し人遣  
て。伐せ浮橋を作りて渡せ。孔明は三万人を  
水上に遣し大竹を伐流して。廣さ十丈あまりの浮橋を作り  
大軍を北の岸に揃て河を渡りて。斬つて。二面は長城をまはへ  
南の岸にも大なる陣屋を三つ所立て。敵の来るを相待けり。此  
とた孟獲は自三万余騎の精兵を引く先陣をまき。身は犀の  
皮の甲を着左の手は楯をもち右の手は劍をら。赤毛の牛を

て威風凛々たるを拂ひて之をけしむ孔明四輪の車をも引回し陣中  
に入て固守する南蛮の勢をまへて往來し赤裸なる陣門の  
前を来り種々罵けしむ蜀の諸將とぞて孔明を見て戦を  
んとせ終ぐ孔明あて許さしむ諸將の曰く蛮夷の奴原余  
り我ホと辱む討て出てけちらきん孔明又とちて曰く南蛮の  
人ひさしく王化を順む今さら寄来て狂悪と盛んを討ん  
とて戦む味方もち損むべし只固く守て出るとちて日を經  
て彼ホが怠るとたを伺ひ我又計を以て破るべしとて自ら高  
きち上りて望むるに夜目ありて南蛮の勢を勇氣たぬと  
く即ち諸將を集て曰く汝ホ出て戦べまら諸將折んて出んと  
請けしむ孔明は趙雲魏延をよび寄耳を付て計を授け王

平馬忠と呼んで計を授け次々馬岱を呼んで曰く今この  
三が本の陣とて河より北へ退くべし汝の浮橋を河の下  
に移し趙雲魏延を渡して後同く河を渡してよむとせよ又張翼とち  
して曰く我が勢を退ひて北の岸より汝の陣中まで  
燈火をとりの置孟獲とて追来べし汝密  
く敵の後と遮るとて一手分りけしむ孔明四輪の車  
みのり関索を従て河の北に退きける是より南蛮の勢は夜  
日罵の陣を寄れども敵一人も出ざりけしむ皆疑いあらず  
あるよの夜陣中より孟獲の燈火を打て星斗の欄干たるを  
ちりし急ぎの由を孟獲は報を夜明て孟獲の軍を  
引ひ来り罵の陣をぐる三が本の陣中より人馬ありとて

孔明陥坑の計とありて四度孟獲と擒る



たが板百輛の車に兵糧を積んで、あつて置たり。孟獲が曰く孔明の陣を去るに必し大なる計あらん。孟獲笑ひて曰く量よ今孔明の陣屋を去るに退るに必し本國は大変あるをらん。吳より攻るる魏より攻るる。此二つを逃はし山の昨夜もあつく燈火を列ねて疑兵の計とはし取らぬもさうの命を兵糧とも奔去り早く追うけて一騎もあまさを討取して自ら真先をさぐんで西洱河の端より向の岸と望みんとて一帯の長城を築く板百輛の矢倉と立いろくの旗とあげて鎗戟の光目にかつ中より近付へきやうぞあかりける。南蛮勢衆は相違してあて進んどもせざる。孟獲弟もいふて曰く孔明の計深き者あるや。孔明は示さるる追ふとと怖れて北の岸を踏止るとして入る。

兩日の内必し必し走るべしとて兵を命とて竹を伐せ筏を作し北へ渡らん。用意なく却て蜀の勢あり其後廻るとを知らざりけり。其日俄に狂風吹起りて石を飛し砂をひるがごとく。南蛮勢衆の奔るる陣中へ入るとも忽ち四方より火を付蜀の勢衆をあらうと討て出けし。南蛮勢衆を合さ乱して踏殺さるるもの板をまらざり。孟獲の一族を引具に敵の陣を突て本陣を回らんとせし。陣中より喊をよびて作て野の大將趙雲兵を率いて殺到す。孟獲魂を失ひ西洱河の傍より山路をさぐりて走らんとせし。又一手の勢討て出野の大將馬岱が色を余はじと搦たりける。孟獲板十騎をまてさうく逃出谷の中へ走けるが南西北の三方火の光

天を焦して馬烟おびじく起りて東をさして落行山の腰  
を轉めて向をきりて入る深き林の内より界の兵數十人二輛  
の四輪車をおし出車の上孔明論巾をひき鶴筆を著く  
手は羽扇を揺らし大笑ひていひ孟獲をさくくおのゝ押  
待しよびりけし孟獲左右を顧て曰く我々の入る計はあつて  
三度まで羞て得たり。今幸ひあつて生ぬ汝ホカを尽して今車  
も微塵もまよやとて一度は喊をどいとい造り溝を双く蒐なりけ  
るが勿心ち天地も崩るごとく陥坑の中を落て上や下へと蠢ま  
けるも魏延叔百騎をよけて林の内よりけし生卒の一人も残さず  
生取けり孔明の本陣を回り生捉て引出し酒を飲せんと  
放して回しけるなる張翼をひらき孟優を縛来りて孔明

おし

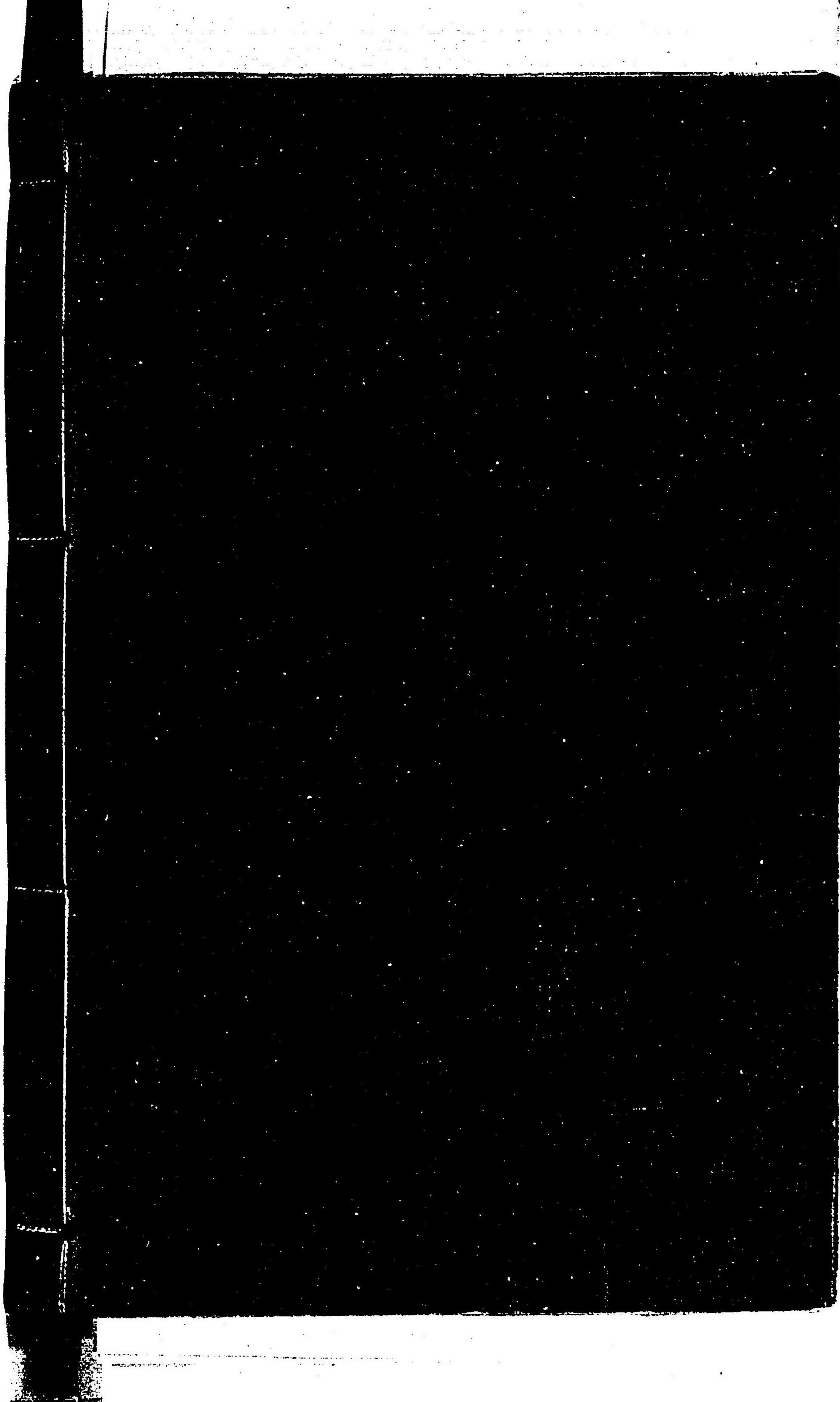
が曰く汝が兄迷て執てしは服せむ巴は四度まで生取きた  
り何の面目ありて人を見ん汝よく練て交りてむる事あり  
孟優大に慙愧し地を伏して命を乞けし孔明が曰く我  
汝を殺すとて今日あらずも今さづく放して回らしむ  
む孟獲を練やとて武士を命とて其繩をとりかせ送  
回しければ孟優涙を流し拝謝して去りける次孟獲を  
引出しけし孔明怒て曰く匹夫又も生取し何の理  
ありて口を閉ん孟獲が曰く今誤りて詐りの計の中  
にりたとい死をも目と塞し孔明武士を下知し引出して  
切しめんとする孟獲をばも拍る色あしく孔明を顧てり  
再びもて放さば必も四度の恨を雪んと云けし孔明大に

笑ひての繩なはを解とき免ゆるさせ酒さけを飲のみせて問とひ曰いく我われもては四よ度ど  
 まが汝おまをを生い取ける人ひとは服くせざふ孟獲まうかくが曰いく。是この孟獲まうかくの  
 人ひとちるゆ人ひとは丞相せいしょうの如ごとく詐いつはりの計はかりを施おこすとと克かへむ我われも人ひとぞ  
 服くせんき孔明こうめいが曰いく。今いま又また汝おましく回かえらまはさん汝おま又また戦いくさふまき  
 孟獲まうかくが曰いく。若も重おも祿ろくて生い取けるゆ我われりちるまをんと傾かたけて  
 服くし。誓ちかて長ながく文ぶんはし孔明こうめい駁はかす興かり送り生いしけれ孟  
 獲まうかく拜まが謝あやしく回かえりけり

繪本通俗三國志六編卷之五終

122  
74  
28







繪本通俗三國志

六編

五